

## 富山県医労連介護セミナー2015 記念講演

# 介護職の輝きここにあり

～「洗濯干し」にある介護の専門性とは何か～



とき:11/15(日) 13:30~16:00  
記念講演  
職場交流 (悩みを出しあおう)  
場所:サンフォルテ 303号室

どなたでも参加できます。



2015介護セミナー  
35人が楽しく学ぶ。セミナー  
福井介護福祉士会からも参加  
介護セミナー

富山県医労連では、11月15日に2015介護セミナーを開催しました。聖徳大学準教授の篠崎先生をお招きし「介護職の輝きここにあり。洗濯干しにある介護の専門性とは」と題して記念講演を行いました。組合員23人を含む35人が参加し、実習しながら介護の専門性を楽しく学びました。介護福祉士会主催の災害に関する篠崎先生の講演を聞いた時からのファン2人が、遠く福井から来られました。

### 観察・確認の4つの視点 介護職の輝きはここにあった

篠崎講演

篠崎先生は、介護技術や記録、アセスメントに入る前の基点となる「観察・確認」に注目し、普段一瞬に行っているこの行為、これは下の4つに分類され、この4つの視点(P2)を持つこと・分類することで、視野を広くすることができ、最善の介護実践を行う根拠にもできると話をされました。具体的に、「利用者篠崎さんが「とんかつ」を食べなくなつた」という設定をし、主観的・客観的情報を4つの視点でカードに記入し、課題解決方法を検討する事を行いました。



目からうるこでした。観察を分類する事で意思統一出来る事がわかった。感想文から

・業務に追われて介護職の専門性を活かされていけない事に腹ただしさを感じています。目からうるこ。明日から視点を変えていければよいと思います。誰でもができる家事援助が、奥の深い輝きここにありという結論にたどりつく講演であったこと、今までのもやもやを吹っ切る事が出来た思いです。私は、観察をととても重要に思いますが仕事をしてはいますが、その観察を分類する事はしていません。分類化する事で多面的となり、スタッフで意思統一もできる事もわかり有意義な講演でした。

### 4つの視点PEIP

- P:Personarity  
個人的要素  
…本人が抱く価値観
- E:Enviromento  
環境的要素…本人の  
周囲に存在する状況
- I:Independence  
自律的要素…どこ  
までできているか
- P:Physical  
身体的要素

# 観察・確認視点の4つの構成要素 (P.E.I.P.) の定義

## 補足資料①参照

### 主観的 情報

### 【個人的要素・Personality】

◎本人が抱く価値観(判断・評価)や欲求、及び本人の人格的価値を守るための事実や状況、そして本人のアイデンティティ(属性・人柄など)の把握を中心主題として観察・確認する視点

- ①価値観(判断・評価)とは、ある事象に対して生まれた本人の感情や気持ちであり、肯定(+)、否定(-)、必要(+)、不要(-)、快(+)、不快(-)という個人的評価。(例)包丁は(利用者にとって)切れにくくないか。
- ②欲求とは、本人が持つ願望。(例)利用者は掃除をたいたいと思っているか。
- ③人格的価値とは、本人が品位を保とうとする心理・態度。(例)食事の際の口元に汚れはついていないか。(例)プライバシーを守っているか。
- ④アイデンティティ(属性・人柄など)には、本人の生活歴も含まれる。

【留意点】個人的要素には利用者の自立的要素を促進するもの(+)と阻害するもの(-)がある。  
【注意】体圓の脈え(だるさ・疲労感)は身体的症状のため、「身体的要素」に分類。

Version  
9.03

### 客観的 情報

### 【自立的要素・Independence】

◎本人が行う活動・参加場面において、本人のできていること(できていないこと)の事実や状況の把握を中心主題として観察・確認する視点

- ①活動には日常生活上で行う習慣・行動(日常生活動作)を含む。(例)利用者はトイレまで移動することができるか。  
※「移動する」…できているという事実の場合は(+), できていないという事実の場合は(-)
- ②参加には具体的な場面で行う行為・行動(手段的日常生活活動)や社会・行事参加も含む。(例)買い物時)利用者はレジで代金を支払うことができるか。  
※「レジでの支払い」…できているという事実(+), できていないという事実の場合には…(-)

【注意】起居動作は身体を動かす基本的身体機能のため、「身体的要素」に分類。  
(例)寝返り起き上がり、座位、立ち上がり、立位の可否

### 客観的 情報

### 【環境的要素・Environment】

◎本人の周囲に存在している事実や状況(人的事実・状況、物的事実・状況、経済的事実・状況、空間的事実・状況、時間的事実・状況)の把握を中心主題として観察・確認する視点

- ①周囲に存在している事実や状況には、下着の着替えの回数、トイレの回数などの頻度に関する事実(状況)を含む。
- ②人的事実・状況には、周囲の者の本人に対する肯定的態度(+)や否定的態度(-)も含む。
- ③物的事実・状況には、本人が活動・参加するための準備も含む。(例)(食事のための)箸の装着状況の確認。
- ④空間的事実・状況には、本人の自宅以外の居住場所(特養・サ高住・自宅など)も含まれる。
- ⑤時間的事実・状況には、介護サービス時間も含まれる。

【留意点】環境的要素には利用者の自立的要素を促進するもの(+)と阻害するもの(-)がある。

### 客観的 情報

### 【身体的要素・Physical】

◎本人の疾患や身体症状(体調・麻痺・拘縮・障害)及び本人の身体機能や精神機能の事実や状況の把握を中心主題として観察・確認する視点

- ①疾患には、過去の病氣(既往歴)を含む。
- ②身体症状とは、体調(だるさ・疲労・便秘など)、食欲の有無、睡眠状況を含む。
- ③身体機能とは、実際に身体を動かすための基礎能力。(例)関節可動域・脚力(ふらつき)・咀嚼力(むせこみ)・握力、失禁(尿意・便意)、座位保持力、口腔内の残渣物の確認を含む。
- ④身体的要素には疾患、身体症状の予防・維持・改善の観察・確認視点含む。(例)薬の服用状況、水分・食事摂取状況、禁止食・制限食摂取状況の確認。
- ⑤精神機能には認知機能、思考機能(理解力・伝達力)や記憶機能、知覚機能、高次認知機能(意思決定・思考・計画の立案や実行)、情動調節機能、計算機能等が含まれる。

【留意点】環境的要素には利用者の自立的要素を促進するもの(+)と阻害するもの(-)がある。  
【注意】移動する(歩く)・着替える・排泄するなどは、活動のため、「自立的要素」に分類